

宮之浦集落

屋久島の北東岸に位置する宮之浦集落。この島の海の玄関口であり、世帯数が1,400を超え、島内で最も人口の多い集落です。港は、県庁所在地の鹿児島市と結ぶフェリーや高速船だけでなく、クルーズ船も受け入れています。また、口永良部島と種子島といった小さな島々を結ぶフェリーのハブとしての役割も果たしています。波止場から少し歩くと、屋久島環境文化村センターがあります。ここでは島内のさまざまな観光スポットへの行き方を教えてもらったり、ガイドを予約したりできます。中心地には、益救（やく）神社と久本寺（くほんじ）があり、その歴史を見れば、屋久島が神道と仏教の影響を同じように受けていることが如実に分かります。集落にはその他にも、イタリア人宣教師ジョヴァンニ・バッティスタ・シドッティ神父（1668～1714）が1708年に抑留された旧奉行所もあります。このシドッティ神父は、日本に密入国し、日本が鎖国政策を取っていた約200年の間にキリスト教の宣教を行った人物です。近くの裏道を歩きながら、「石敢當」を探してみましょう。これは、先のとがった石で、魔除けとして十字路に置かれています。